

### 誰もが安全で楽しく活動できる環境づくり

#### 取組の背景・目的

##### [背景]

特別な配慮を要する児童の利用に際し、環境整備をはじめ、集団活動、他児童との関りに応じた援助を日々、試行錯誤している。

##### [目的]

障がいの有無にかかわらず、誰もが安全で楽しく一緒に活動できる環境づくりの促進に取り組む。

#### 取組の概要

##### [実施場所]

日常活動場所：学童保育室 図書室 工作室 遊戯室 屋上

施設改修箇所：①トイレ ②学童保育室

##### ① トイレ（写真1）

- ・大人用便器 1 か所を幼児用便器に交換 ・ドアストッパー、用具入れの鍵取り付け
- ・床面高さ調整マット、着替え時の衝立設置

##### ② 学童保育室（写真2）

- ・段差撤去（全面フラット化）

畳敷き部分と床部分の 15cm の段差があり踏み外しのリスクが大きいため段差のない床面に改修し、ゴム製の畳マットを設置

##### [実施頻度]

- ・日々の活動の中で実施
- 多様性について考える機会づくり わかりやすい表示 職員の支援

##### [職員体制]

- ・対応職員として 1 名配置  
常勤職員 6 名 ・会計年度任用職員 3 名（内 対応職員 1 名）
- ・心理相談員による巡回相談

##### [事業の実施方法]

直営

#### 工夫点・留意点

- ・施設改修箇所については利用者に掲示物や、口頭で安全性や利便性の周知を行った。
- ・集団保育で支援が必要な児童の対応、また他児童との関わりについて、心理相談員による巡回相談で助言を受け、実践している。

- ・状況に応じて児童が多様性について考える機会をつくる。  
多動、集団行動や日本語が苦手な児童等が複数いる中で、相互理解ができない場面が出てきたため、1年生全員、2年生以上は必要に応じて話をし、各自に考えてもらう機会を持った。
- ・すべての児童にとってわかりやすい指示や具体的なイメージができる説明（ルール表やイラスト等の活用）をしている。
- ・全員参加の行事と、任意参加の行事を明確にし、児童が事前に把握でき、安心して参加できるようにしている。
- ・グループ活動時のチーム分けは、状況により職員が調整し、どの児童も安心して楽しく参加できるようにしている。
- ・補助者は、なるべく活動への参加を促し困難な部分（ルール理解、やり方等）を支援する。  
(写真3)
- ・必要に応じて保護者と連携を取り、児童の意思や保護者の意向を尊重している。

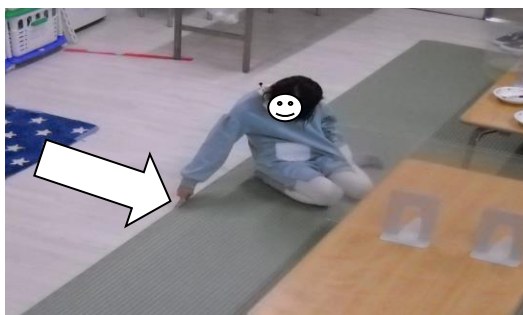
### 取組の効果

- ・大人用便器を幼児用便座に改修したことで、小柄な児童、トイレトレーニング中の幼児が一人で座り安全に用を足すことが可能となった。また、畳の段差解消により、幼児も含め転倒や踏み外しのリスクが解消した。
- ・支援の必要な児童に対して、知ろうとする姿勢、声掛け、援助する児童が出てきた。
- ・支援の必要な児童がさまざまな活動に意欲的に取り組み、参加できることが増えてきた。
- ・特別な配慮を要する児童の困難さに応じたニーズに添うことはすべての児童や利用者にとって安全で楽しく活動できる場所となり、環境の改善につながった。

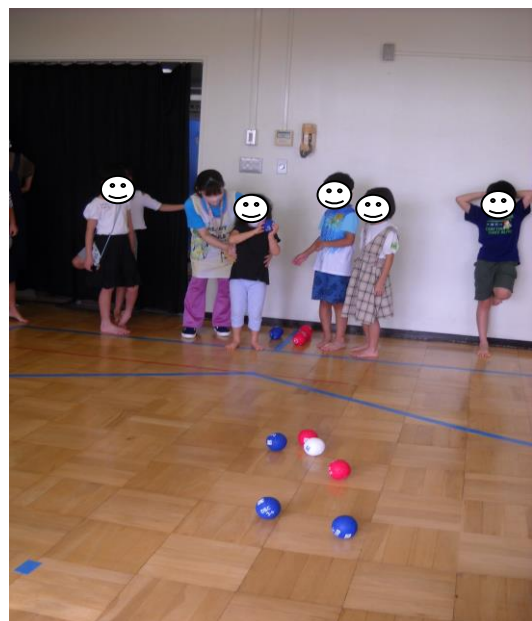
(写真1)



(写真2)



(写真3)



### 課題・今後の展開

特別な配慮を要する児童の受け入れに際して、当該児童の安全性と受け入れ態勢を整えるための準備からスタートした。今後は、ユニバーサルデザインやインクルーシブの視点を重視し、すべての児童の安全、安心な居場所づくりに取り組んでいきたい。